

関東 城巡りの お誘い

2016.10

皆様、暑い夏も過ぎ、今年は、何回の台風が来ましたが、如何 お過ごしでしょうか？

今、関東の城跡では、H N K 大河ドラマの真田丸で 沼田城や、岩櫃城などが、盛り上がっておりますが、その昔の、足利学校へ 訪れたいと思います。

日時：11月12日(土) 群馬県：現地集合、現地解散 (雨天決行)

城巡り：足利氏館跡：鏝阿寺＋ 館林城跡

集合：東武鉄道：足利市駅前 9時に 現地集合

東京からは、東武鉄道（伊勢崎線）特急「りょうもう3号」 浅草発 07：40、北千住発 07：52 に乗車で、足利市駅着 8:52 になります。

1. 足利氏館跡：鏝阿寺 (9:30－11:00)

足利市駅から、鏝阿寺まで、徒歩 15 分。

人数が、10 名以上ならば、当日 90 分のツアー案内をして戴ける予定です。

終了後、駅への 途中で、足利学校を見学して、太平記館に寄り、足利市駅へ。

足利学校 日本最古の学校で、その創建は奈良時代とも平安時代ともいわれています。15 世紀中頃には関東管領 上杉憲実

によって再興され、多くの学生が集まったと伝わります。敷地内には、学校門、大成殿、杏壇門など江戸時代の建造物が残されています。

太平記館 足利学校の近くにある観光案内所です。館内にはおみやげ売り場や休憩所が併設されています。

足利市駅から 16 分の 館林駅へ、 (12 時ごろに乗車)

館林駅近くで 昼食

2. 館林城跡 (13:00－14:30)

駅から 館林城跡まで、徒歩 15 分。

解散：15 時頃には、館林駅に戻って、解散し、各自 御帰宅へ。

このような日程ですが、ご参加をお待ちしております。参加申込みは 10 月 28 日（金）までに

メールにて文化活動委員会 bunka@ssis.or.jp までにご連絡ください。 -

・ 足利氏館 館跡には足利氏の氏寺 鏝阿寺が建つ



築城年：平安時代末期

築城者：源義国

城の種類：平城

おもな城主：源氏、足利氏

- 足利氏館は平安時代末期、源義国 によって築かれたものとされています。周囲に堀を巡らせ土塁を築いて邸宅としていました。建久 7 年 (1196 年)、義国の孫にあたる足利義兼は館内に持仏堂を建て、御本尊に大日如来を祀ります。これが 鏝阿寺 の始まりです。その後、鏝阿寺は足利氏の氏寺として着々と整備されていきます。本堂は義兼の子 義氏によって建立されました。
- 現在、足利氏宅跡は国の史跡に指定され、鏝阿寺の本堂は国宝に指定されています。
- 足利氏館跡には足利氏の居館は残されていません。しかし敷地の周囲に堀と土塁がよく残っており、館の当時の形状を伝えています。館跡南側に架かる太鼓橋を渡り、仁王門をくぐると正面に見えるのが鏝阿寺の本堂です。本堂は鎌倉時代後期に再建されたもので、経堂とともに内部を拝観することもできます。(有料・要事前予約)
- 鏝阿寺境内には、一切経が納められた経堂、多宝塔、鎌倉時代初期の鐘楼など他ではなかなか見られないような歴史的な建造物が多く残されています。
- 国宝に指定されている鏝阿寺の本堂です。まず お詣りしてから散策するとよいでしょう。



- 館跡の周囲は水堀と土塁で囲まれており、四方に門が構えられています。



-
- 経堂の近くには多宝塔が建てられています。多宝塔としては国内最大ということです。
- 建久 7 年（1196 年）、足利義兼によって建てられた鐘楼も残されています。

館林城跡 市指定史跡(館林市)



館林城は、城沼を自然の要害とした平城で、別名を「尾曳城」といいます。館林城の形態は、城沼を城の東側外堀とし、沼に突出する低台地を区切って、城の中心である本丸、二の丸、三の丸、八幡郭、南郭を置き、これを囲むように、稲荷郭、外郭、惣曲輪を構え、さらに西方の台地に城下町を配置し、すべてを土塁や堀で囲んでいました。

築城時期や築城者については、江戸時代になって書かれたもののなかに、赤井照光によって築かれたとするものがあり、狐の尾曳伝説と相まって広く知られている。しかし、実際には築城時期や築城者を明記した当時の記録は発見されていない。館林城について書かれた最古の古文書は、文明 3 年(1471 年)に上杉軍が赤井文六・文三の居城である立林城(館林城)を攻略したという記録とされる。その後、越後の上杉氏、甲斐の武田氏、小田原の北条氏による三つ巴の攻防のなかで長尾氏、北条氏などが館林城を支配した。



土橋門



館林城本丸跡

豊臣政権下の天正 18 年(1580 年)徳川家康の関東入封に伴って、徳川四天王の一人榊原康政が十万石で城主となり、江戸時代になると利根川をおさえることができる東北方面への要所とした。また、徳川綱吉が五代將軍になってからは、將軍を輩出した徳川宗家に関わる重要な地として江戸幕府に位置付けられ、最後の城主秋元氏まで江戸幕府の重鎮を務めた七家の居城として栄えた。

城の建物は、明治 7 年(1874 年)に大半が焼失し、現在では本丸、三の丸、稲荷郭、城下町などの土塁の一部が残り、三の丸には土橋門が復元されています。(館林市教育委員会資料より)



館林城本丸跡の石垣



八幡宮(館林城八幡郭)